

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制 岐阜大学 教育推進・学生支援機構基盤教育センター 企画運営会議

(責任者名) 益子 典文
(役職名) 教育推進・学生支援機構基盤教育センター長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点		
	プログラムの履修・修得状況	教育推進・学生支援機構基盤教育センターに設置された数理・データサイエンス・AI部会（以下「AI部会」という。）において、プログラムの履修・修得状況を分析している。本プログラムは、全学共通教育科目「データ科学基礎」（1単位）および「データ科学基礎演習A」（1単位）または「データ科学基礎演習B」（1単位）のいずれか、合計2単位を修得することを修了要件としている。なお、「データ科学基礎」は令和6年度より全学必修科目としている。
	学修成果	AI部会において授業評価アンケート結果を分析し、学生の理解度を把握している。また、学生の所属・学年別の修了状況や、教育学習支援システム（LMS）上で実施した課題への回答状況を分析し、授業の難易度に問題がないかを確認している。これらの分析結果は、教育推進・学生支援機構企画運営会議と共有し、本教育プログラムの質保証および継続的な改善に活用している。
	学生アンケート等を通じた学生の 内容の理解度	授業評価アンケートにより学生の理解度を把握している。授業内容を理解できたかを問う設問において、受講生の約75％が「あてはまる」「ややあてはまる」と回答しており、全学共通教育科目として授業の難易度は適切であると考えられる。
	学生アンケート等を通じた後輩等 他の学生への推奨度	授業評価アンケート結果では、データ活用、AI、情報倫理・セキュリティ等の内容を「今後必要な知識」として認識し、その社会的意義を理解したとする意見が多く見られた。本科目は学部の1年生を受講対象としているため、後輩への推奨度については明示的な設問による調査は行っていないが、上述の授業評価アンケートの設問結果および自由記述式コメントから、後輩等にも受講を推奨できると捉えている受講者が多いと考えられる。
	全学的な履修者数、履修率向上に 向けた計画の達成・進捗状況	「データ科学基礎」の必修化により履修者数が大幅に増加した結果、授業設計や学修支援の在り方が重要な論点となっている。また、AI部会において授業評価アンケートや学修状況の分析結果を踏まえ、授業方法および教材内容の見直しを継続的に行っている。これらの取組を通じて、教育の質の確保を図るとともに、本教育プログラムの修了率向上につなげている。
学外からの視点		
	教育プログラム修了者の進路、活 躍状況、企業等の評価	本教育プログラムは令和4年度に開始したため、修了者が社会に進出するのは令和8年度以降となる見込みであり、現時点では網羅的に把握する段階には至っていない。全学的な卒業調査の際に活躍状況等の調査を実施する予定である。
	産業界からの視点を含めた教育プ ログラム内容・手法等への意見	令和3年度に監査法人トーマツに委託し、東海地域の企業7社（支社を含む）に対して大学の数理・データサイエンス・AI教育への期待、協業の希望等についてヒアリングを実施している。得られた意見は、今後の地域連携体制の構築や、カリキュラム・教材の改善の参考としている。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること		各講義において情報科学の社会とのつながりについて最新の事例に基づいて紹介し、学生の動機づけを図っている。データサイエンスを学ぶことの楽しさや意義を学生がより理解できるような授業内容としている。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載		AI部会において、学生の修了状況や、課題の解答状況、授業評価アンケートの結果の分析を行い、「分かりやすさ」の観点から教材や授業実施方法の改善策を検討している。また、定期的に授業担当教員へのFDを行うことにより、授業の水準の維持・向上を図っている。